

報新國教

定 価 １部 140円（本体 133 円＋税 200 円）
 予約購読料 １年分 共計 5,000 円
 紙代のみ 3,500 円
 振替 00140—9—145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX03(3207)3918
E-mail:shimpoh-c@uccj.org

発行人 竹前 昇
編集主筆 竹澤 知代志
印刷所 株式会社きかんし

讃美と祈りと交わりと

夏に集う若者たち 2005

子ども大会終了後の全体スナップ^o

「みんなで遊ぼう子ども大会」が七月二三日(土)、愛隣園(児童養護施設)の体育館において開催された。

これは、沖縄教区宣教部委員会の下に諸教会の有志をもつて構成された実行委員会の自由な企画で成されたものである。その日は、教会のキャンプや夏休みの学校行事と重なった所もあったにも拘わらず約一五〇名の参加者が与えられた。

開会礼拝では比嘉盛二郎牧師(高原教会)から「子どもを招くイエスさま」(マタイ一九・一三―一五)の説教を聞いた。

それから実行委員長の長嶺明子さん(説教教会)と榎本恵牧師(良きサマリヤ人伝道所)による総合司会

のリードで参加教会が担当するそれぞれのコーナーに分かれた。

ヌラン作りは小さな子どもたちに大人気であった。思う存分楽しんでる子どもたちの姿を信仰の先輩たちが見守っている光景は正に神の家族としての教会らしい光景であった。

昼食は、寄宮集会所（与那原教会）の姉妹たちが力を入れた。レライスを用意してくださった。一五〇人分を用意したということだが、後で参加者の数を知ったとき姉妹たちは大変驚いていた。かき氷も好きなだけ頂き、子どもたちはどの顔も満足そうだった。

お昼を済ませて、午後はステージにてミニライブが催された。読谷教会の子どもたちによる空手演武、美里教会の子どもたちによる琉球舞踊、それから一般の若者たちによる飛び入り参加のロックバンド、フォークバンドがライブを盛り上げてくれた。

「みんなで遊ぼう子ども大会」に一五〇名
 沖縄教区で信仰の継承目指しユニークな企画

閉会礼拝では望月智牧師（志真志伝道所）から「キリストの体としての教会」（イコリント二・二七）の説教を聞き讃美と祈りののちに会を閉じた。

実に、このような集いは二〇数年ぶりである。ある信徒は教区の集いといえども、「合同のとらえなおし」に代表されるような難しいものばかりだと思っていたが今回このような集いに参加して教会の交わりの底力

を感じたと話された。

それから、愛隣園の子どもたちとの関わりも持てて良かった。今後も彼らと関わりの持てる集いを期待したいという声も聞かれた。

又、ある教師は、この会の成功は宣教部委員会が実行委員会の自主性を重んじてくれた所にあるとの意見を述べられた。

後日、開かれた反省会では、宣教部委員会の方でも今回の「子ども大会」が高

く評価され、本年度内にも
う一度、何らかの集いを企
画することとなった。
信仰の継承を真剣に考え

て欲しいとの強い声が反映された今回の企画であった。

（具志堅篤報）



屋食のカレー、150人分用意し

最終日には参加者一人ひとりの感想や決心を分かち合った後、笑顔と讃美の恵みに満ちたキャンプを感謝しつつ終了し東京に帰り、七家庭にホームステイを受け入れていただき豊かな出会いを経験した。

聖日にはそれぞれの家庭の属する教会で礼拝を守り、夜には本所緑星教会で感謝礼拝と夕食会を守った。キャンプ中から礼拝に

声が荒野の
 ▼我が家の庭にスイカがなつた。丹誠込めたかいあつて、大玉が二つ、少し小さめが一つ、縞模様もくっきり色濃く、いかにも器量が良い。▼過去にも何度か挑戦したが、スイカ作りは難しい。蔓が伸び場所を占めるので二苗植えるのがせ

(吉岡康子報)

祈りと友情は海を越えて

韓国の高校生を迎え修養会

韓国・イエス教長老会永楽教会の高校生一四名と李創教牧師他リーダー三名が七月二日から八月一日まで来日し、西東京教区の中高中生を中心とした日本の青少年と交流した。

どですっかり打ち解けた頃には会場である千葉の岩井海岸に到着。開会礼拝により約六〇名による修養会はスタートした。

西東京教区の誇る「高校生委員」たちのアイデア満

とイエスさま」について
李牧師からの主題講演と、
参加者の永楽教会高校生会
（約九〇〇人在籍）、会長
の洪政郁君と西東京教区高
校生委員会委員長の中島恵
里香さん（南三鷹教会）ら

と「かくし芸大会」には、それぞれ趣向をこらしての「仮装」で参加、こども

いった。
前回に引き続き沖縄からの参加者も与えられ、文字

心境だ。▼ところで、栽培以上に難しいのが、スイカの収穫どき。早過ぎても遅過ぎても具合が悪い。花が咲いてから三五日目だと聞いたが、何時花が咲いたのかわかる由もない。▼機が熟

永聖教会高校生会と西東京教会および東京教区西南支区中高校生は毎夏相互訪問を重ねており、韓国からの訪日は七回目となる。

一昨年に引き続き今年も訪日団と西東京教区教育部主催による中高校生合同キャンプが三日間にわたって行われ、充実した学びと豊かな交わりの時を持った。成田空港での「熱烈歓迎」の後、バスの中でのゲームな

載企画と進行による「ウルカムパーティー」では、旅の疲れも見せない韓国高校生およびリーダー達のパワーに圧倒されつつ、負けてはならじと日本の中高生も大奮闘。すっかり打ち解けた後は、静かに夕べの祈りをささげた。

二日目には今回のテーマと主題聖句である「ワン・フォア・オール オール・フォア・ワン」迷い出た羊

の発題を受け、韓交えてのグループディスカッションを行った。それぞれの教会や学校生活、受験、韓国書の徴兵制やいゆる「教科書」「竹島・独島」問題など様々な事につき率直かつ活発に意見交換をし、学びと理解を深めた。

午後には海水浴にサッカールーに汗を流し、その後温泉での「裸の付き合い」も経験。夕べのバーベキュー

「仮装パーティ」での記念写真

しても、外目には分からない。早過ぎたら芽を摘んでしまふ。しかし、遅過ぎて機を逸する場合の方が多いだろう。▼伝道の機が熟しても、外目には容易に分からない。もう充分に熟れているのかも知れない。机の上にスイカを飾り、沖縄と西東京のキャンプ報告を讀んでいて、そんなことを考えた。▼我が家のスイカは、真赤に熟れていた。感謝。



昼食のカレー、150人分用意して150人集まった



「仮装パーティ」での記念写真

荒野の虎

▶ **ホタルの生態**

その町の平安があつてこそ

8・15 平和祈禱会



在日大韓教会西新井教会・韓聖炫牧師による説教

初めて参加した、憲法改定が論じられる時代になり一緒に祈りたいと思つたなど、思いを語る人もいた。蝉しぐれに包まれ、立つてゐるだけでもじっとり汗ばむような暑さの中で祈禱会が始められた。

礼拝は日本キリスト教協議会が敗戦後六〇年を覚えて作成した礼拝式文を基に進められ、経済力という偶像礼拝に陥り、侵略の責任を担うことを怠つた罪を悔い、罪から立ち返る者となしたまへと導きを祈つた。

説教は在日大韓教会西新井教会の韓聖炫牧師が「その町の平安があつてこそ」と題して語つた。バビロンに捕囚として連れて行かれ、人々に対し、エレミヤが、その町で家を建て果樹を植え落ち着いて暮すようにと命じられたことを引いて、韓牧師は、自身の在日としての歴史から、次のように語られた。

「過酷な植民地政策により、日本に渡らざるを得なかつた朝鮮人は四五年には二二〇万人に達していた。その当時の在日一世が亡くなる一方、日本で生まれ育つ人が増えている。在日は日本で普通の市民生活を営むことを願っている。しかし、さまざまな民族差別、国籍条項による排除などの壁に悩まされている。在日

は、住んでいるこの日本が平和な国になることを願っている。日本が民族的少数者を受け入れ、豊かな多文化・多民族社会になることが、在日の平和に直結し、ひいてはアジア全体の平和に繋がることを信じている。預言者エレミヤは捕囚の民に対し、七〇年という、人の一生を越える時間が経つたときに、バビロンから解放され、故郷エルサレムに帰るという希望を告げ、それゆえにこそ、バビロンの地で腰を落ちつけて生活するようにと命じた。我々に希望を与えるのは神であり、自分の願望ではない。それゆえ、自分だけの幸福、自分だけの繁栄はあり得ない。『二つの部分が苦しみ、すべての部分が共に苦しむ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶ』というコリント人への手紙の言葉の通りである。いま、この国の平和の



5つのグループに分かれて祈りをささげた

り、自分の願望ではない。それゆえ、自分だけの幸福、自分だけの繁栄はあり得ない。『二つの部分が苦しみ、すべての部分が共に苦しむ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶ』というコリント人への手紙の言葉の通りである。いま、この国の平和の行方が非常に心配である。アジア太平洋戦争の悲惨さを忘れようとしている。まだ過去の行いに対する責任が十分に果たされていないのに、責任から逃れようとし、天皇中心の国家至上主義的な『靖国信仰』を復活させようとしている。このような社会で、神の計画と和が行われるように、非戦

を謳う憲法が改定されないように、子どもたちに平和な社会を残せるように、一刻も早く過去の戦争被害者に対し謝罪をできるようになど、それぞれの輪で、心からの願が神にさげられたいと、主の祈りを祈つて終わった。

(鈴木伶子報)

出会う事の大切さを再認識

神学校等人権教育懇談会

本年六月二〇・二二日、滋賀県野洲市の近江平安教会及び野洲地域総合センターにおいて部落差別問題の現地研修を兼ねた第一八回神学校等人権教育懇談会が開催された。

東岡山治牧師による開会礼拝に続き、アジア神学の動向」と題し同志社大学原誠氏の発題を受けた。

休憩を挟み部落解放同盟和田支部の皆さんとの交流会を与えられ実りある懇談会が持たれた。

二日目、会場をセンターに移し地域住民と一体となつて取り組まれた同和対策事業による住環境改善の変遷と差別事件への取り組みについて報告を受けた。過去二〇年で百件を越える差別事件が市内で発生している。

二〇〇四年、野洲市役所に「野洲市の〇〇番地は同和地区であるか?」という問合せが不動産業者からあった。その理由を尋ねると「買い手に同和地区であるか否かを説明する必要がある」とのことである。これはその業者からすれば「善意」なのである。買い手に対する「善意」がしたことである。しかしその「善意」は同和地区を排除する紛れもない差別であり、その差別は無意識の排除によって「善意」と呼び交わされている。

希望を、み言葉を通して謙虚に聞き、神の平和のご計画がこの地になしとげられることを共に祈り求めたい。

このあと、参加者は五つのグループに分かれて、祈りをささげた。み心が地になつて、神の正義と平和が行われるように、非戦

六月二〇日・二二日、アジアセンターODAWARAで、第一九期第七四回、全国教会婦人会連合中央委員会が行われた。

今回の委員会は、第一九期第一回であり、選挙が行われた。委員長に清水操氏(神戸栄光)が再任され、常任委員、各小委員などが選出された。

活動方針として掲げて行われた。大きな課題として取り上げられたのは、現代女性の立場や価値観の多様化、それに伴う教会における「婦人会」の在り方の変化であった。

てきた社会では、従来通りの活動を行うことが難しくなつてきており、教会内で奉仕者の減少、後継者不足の問題が挙げられた。それを受けて、これからの活動、組織の見直し、小委員会同士の

教会に集う婦人会の課題であり、一人一人の課題である」として、呼びかけられていくとされた。

後継者の育成について、「青年会が衰退し始めた時期に、『最近青年会が少ない』と、他人事のように思つていた」「婦人会の中でしか物事を見ていなかった」「青年が減るということ

外ミニストリーなどでも協力、広々関わる姿勢を見せた。

「新しい時代の中で、婦人は曲がり角に立つて

「アジア神学と動向」について、原誠氏講演

21世紀の宣教をにらんで

全国教会婦人会連合中央委員会

各教区からの報告、特に欠席した教区からの報告にも「性別で会を分けることの疑問」「婦人と呼ばれることへの女性の抵抗」に触れたものが多く見られた。また女性が働くことが当たり前になつ

てきた社会では、従来通りの活動を行うことが難しくなつてきており、教会内で奉仕者の減少、後継者不足の問題が挙げられた。それを受けて、これからの活動、組織の見直し、小委員会同士の

連携など内部の在り方に見直しなどが課題とされ、「21世紀に向けた歩み」の重要性が確認された。

教団内にあつては「宣教委員会を側面から助ける自主活動団体(教規41



第 19 期第 74 回中央委員会

「善意」と呼び交わされている。

二〇〇四年、野洲市役所に「野洲市の〇〇番地は同和地区であるか?」という問合せが不動産業者からあった。その理由を尋ねると「買い手に同和地区であるか否かを説明する必要がある」とのことである。これはその業者からすれば「善意」なのである。買い手に対する「善意」がしたことである。しかしその「善意」は同和地区を排除する紛れもない差別であり、その差別は無意識の排除によって「善意」と呼び交わされている。



「アジア神学と動向」について、原誠氏講演

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

宣教方策会議開催への準備進む

**宣
教
委
員
会**

第34総会期第二回宣教委員が七月一四〜一五日、教団会議室にて開催された。

開会礼拝を柴田もゆる委

「九節に基づき、種各裁判に關わつた一人として、その経緯に触れながら、牧師とほか、一人のキリスト者としての姿勢を巡つて説教がなされた。

常議員會、常設専門委員

会等の諸報告を経て、協議に入った。



実りある宣教方策会議の開催を目指して

第二回委員会における協議の主要事項の一つは、宣教師策会議に関する件である。第33総会期宣教師委員会が開催主体としての責任において開催を見送り、共通理解を模索すべく発題者を立てて宣教師委員会を巡る歴史的検証を行った。第34総会期委員会は、それを受けて、対立を際立たせるような会議ではなく、二世紀を迎えた教会の現状と展望について、特に戦後六〇年をふまえて、今後の教会の行く末を探る内容で宣教師の方策を巡って協議する方向

第34総会期第一回障害者差別問題小委員会が、教団会議室にて七月四、五日に行われた。

開会礼拝では、招集者である柴田もゆる委員が、マルコによる福音書三章一〜六節より「真ん中に立ちなさい」という御言葉は「あなたも一人の人として生きよ」という主イエスの呼び掛けである、ということを中心に語られた。

情報交換にニューズレター発行

障害者差別問題小委員会

で一致した。特に今回の開催にあたっては、八月下旬に開催される準備会に一七教区の宣教委員長（またはそれに代わる担当者）を招いて、教区の現状報告（主に教勢・財政・教区形成等）を聞き、課題の共有に向けて、実りある会議開催の糸口とすることを承認した。

主要協議事項の二つ目は、自主活動団体認定申請に関する件（日本キリスト教保育所同盟、「日本基督教団全国教会幼稚園連絡会」）である。これは、第33総会期からの申し送り事項であるが、本委員会では承認に向けて、更に精査、調整を行う最終段階にあることを確認した。

障害者差別問題小委員会報告では、懸案となっていた会計報告について勝山健一郎担当幹事がその詳細を報告し承認されたが、「障害者差別と取り組む活動者全国交流会」の開催を巡っては、今後も慎重に対処してゆくこととした。

聖書注解書刊行については（清算処理）、第34総会委員會報告承認を経て、現期第二期常議員會での宣教會、菅沢邦明氏が所有してゐる貯金通帳並びに印鑑の引渡しを求め、これを受領して終結に向かうべく、教務會に付託した。

（藤田義哉報）

消息
村山盛教氏
(隠退教師)



阿佐ヶ谷	就担	北川善也	厚
南三鷹	就担	吉岡喜人	
八王子栄光	就担	中西 碧	
青梅	就担	有馬尊義	
キリスト教学校教育同盟	辞(教)	相澤真喜	
北備	就(担)	西間木 献	
油木	就(担)	西間木小代合	

辭担	堀川賢二
就主	堀川賢二
就代	荒瀬正彦
山都	
名古屋中央	就担 若林一義
大阪四寶島	辞担 水谷 憲
就主	水谷 憲
辞(代)	井川 勝
就代	渡部信子
青山学院中等部	
辞教	石丸泰樹

困難な面もあるが、各委員それぞれ、その賜物に従って、その任を果たしていただきたいと祈っている。

次回委員会は、一〇月三十一日、二月一日、教団会議室で開催することとした。

修了後、南大阪教会、高石教会に赴任。日本クリスチヤンアカデミー関西セミナールハウスに奉職中に上賀茂伝道所を兼務。七六年から九九年まで豊中教会牧師を務めた。遺族は長男の盛芳さん。

山梨英和大学	辞教)金井美彦
香櫨園	就主)森岡高康
西宮	就担)西川專一
塚口	就担)澁谷弘祐
関西学院大学神学部	就神)平林孝裕
福島新町	辞担)瀧山勝子

新潟愛泉	就主)石丸泰樹
〃	辞担)富井鉄兵
〃	就主)富井鉄兵
四条町	辞主)横田満朗
〃	就主)平山正道
矢板	辞代)横田満朗
〃	就主)横田満朗
教師隠退	

事務局報

教師登錄

こと、障害者の範囲を柔軟に考えること、各個教会の活性化・宣教的立場から、将来の展望を考えていくこととした。さらに「障害者差別問題と取り組む活動者全国交流会」は、二〇〇八年度に開催することとし、全国募金（七〇万円）を行うこととした。

課題は多く、今期委員会で結論を出しうるかどうか

一日（二月二日、教団会議室で開催することとした。

内容は、①「かがやくとも」レター版第二号発行、②医療福祉制度の変化、③データーベースのサンプル、④刑法三九条で、これら四つの課題について、それぞれ担当者が発題することとした。

（堀真知子報）

教師登錄
秋山 泉、門山路都、
菊地惠美香、小田部実生子、
星野江理香、矢澤美佐子
(二〇〇五・六・二五受允)
教師異動

東奥義塾高校	就(教)阿部義也	柴宿	就(主)高橋 潔	辞(代)三河 豊	辞(教)加藤 潔
〃					
稚内北星学園大学					

大久保 絹↓西田 絹
ペニントン・ウエンディ・桃
↓楠元 桃
渡辺京子↓浜本京子
所在地変更
福野 南砺市福野一〇七二

西中国
平和を願いつづけて
柴田もゆる

被爆六〇年を迎えた今年、五月の教区総会で議員提案の「あらゆる米軍基地の強化に反対し、米軍基地撤廃の取り組みを推進する事件」が可決され、「基地問題」特別委員会が新たに設置された。以前から米軍岩国基地をめぐる取り組みはあったのだが、二〇〇八年の「岩国基地沖合移設事業」完成を前に、在日米軍再編に伴う厚木基地駐留の空母艦載機部隊の移駐先として岩国が急浮上し、NLP

教区 コラム

は「それは社会問題であつて、教
会が取り組むべき
事柄ではない」と
考えるかも知れな
い。確かに「社会
問題」という一面
もあるが、基地
を抱える町には具体的住民の生
活があり、それが否応なく基地の
影響を受ける。経済効果という宣
伝とは裏腹に、影響の多くは騒音
事故の危険、米兵による犯罪被害
であるのである。

西中国教区は六〇年前のヒロシ
マの経験をふまえ、「平和聖日」
制定を決議し、それが今日の教団
の歩みに根付いている。そして今
ヒロシマ、呉、伊ワクニを抱える
教区として、この地に生きる人々
を取り巻く事柄と向き合いながら
歩みたいと願っている。そして、
そのことから沖縄教区との連帯も
可能になっていくのだと思わされ
ている。(西中国教区総会副議長

要性の説明があった。

その後、今期委員会のあり方などについて、自由に意見交換が行われた。その中で、特に委員会で協議されたこと、分かち合ったことなどを、いかにして多くの教会、信徒に伝えていくかが、課題として重要であることを確認した。お互いに情報交換を深め、委員会と教区、委員会と活動者のネットワークを築くために、ニュースレターの発行が提案され承認した。また名称の問題を手がかりにして、委員会の課題を考える



今総会期第一回の委員会、自由に意見交換

[illegible]

久万	〃	〃	〃	青戸	聖学院大学大学院	口ゴス	三条	水戸	佐渡	桜木	〃	香美	〃	〃
辞担)向井清子	辞主)向井恒夫	就主)川島貞雄	就担)川島温美	辞主)川島温美	就教)古屋安雄	就主)山本俊正	就主)西川幸作	就担)松井 初	就担)荒井眞理	就主)山上清之	辞代)宍戸基男	就代)野村義和	辞主)山上清之	就代)大月純子

新井	妙高市栄町三の十六	四一五の三
田沢	十日町市山崎イ四二	
妙高高原	妙高市大字関川	上原 武方
氏家	字平石二四五の二	
下館	筑西市大字二木成	三〇九三の一
岩槻	さいたま市岩槻区	一二七三
	本町四の三の十五	
通信先設定		
山辺	天童市鶴町一の	
七の十九	原 裕氣付	
山都	喜多方市稻清水	
	二三七四の四	
	喜多方教会気付	

牧師のパートナー

牧師のパートナーとして二十七年目。福島にある喜多方教会、猪苗代教会、そしてロサンゼルスの日系教会にての宣教活動。帰国し、再び、東北の地に戻り、福島荒井教会での奉仕。現在、神奈川教区・上星川教会にて七年目になりました。

横浜という土地柄、ミッションスクールが多く、キリスト教伝来の歴史と多くの宣教師として遣わされた方々の貴い働きを身近に感じます。毎年、四月、教会学校に新しく子供達を迎える度、送り出して下さるキリスト教主義幼稚園・学校の先生方の思いと祈りに感謝の念を新たにします。初めて礼拝に出席する子供達の真っ直ぐな眸に接すると、私自身、襟を正す思いがします。私は理屈ぬきで子供達が大好きです。一〇年後あるいは二〇年後、聖書の話のどんなことでもいいですから一つでも子供達の心に残り、心の糧となるならば、こんな幸いなことはないと思っています。

子供達との関りは三〇余年前に

さかのぼります。教会付属幼稚園で保育士として働いておりました。その傍ら、神学校で学び、その後、牧師のパートナーとして立たせていただきました。

三人目の子供を出産後、心身共に疲れをおぼえ、どん底にありました。幾重にも理由はあげられませんが、傲慢のなせる業であったと振り返って思います。コリントの信徒への手紙(一)一章二一節「神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。」このみ言葉を目にした時、罪人のなんたるかもわからない愚かな者が神さまによって用いられている、と胸に温か

みこころが行われますように

友川 幸子
(上星川教会員)

そして、私の根底は「聴くこと」「祈ること」に肝に銘じています。神さまのみ声に聴き、祈ること。人の気持ちに耳を傾け、執り成しの祈りを続けること。家族一人ひとりのために祈ること。牧者のために祈ること。それにもまして、私の背後で貴い祈りがささげられていることを深く感謝いたします。



教会集会所前にて

外登法問題国際シンポジウム

六月二〇日〜二三日、第一一回外登法問題国際シンポジウムが北海道・夕張で、「戦後」解放後六〇年、日韓国交から四〇年一世紀東アジアの和解と共生」を主題に開催された。

韓国基督教教会協議会(NCCCK)人権委員会、韓国教会在日同胞人権宣教会、外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会(外キ教)、日本キリスト教協議会(NCCJ)在日外国人の人権委員会の四団体が共催して行ったシンポジウムには、韓国教会から二名、日本・在日教会からは各教派・団体および各地外キ連の代表者三七名の参加者があった。なお、今回韓国カトリック教会司教協議会・正義と平和委員会から二名の正式参加が実現し心強いことであった。

韓流ブームに逆流現象がある中、予想を越えた韓国教会の参加に「継続は力なり」を実感した。

シンポジウムに先立ち、林炳澤さん(日本の戦後責任を清算するために行動する北海道の会)の案内をえて、夕張炭鉱の跡地をまわる現場研修を行った。一九三九年から日本による朝鮮人強制連行が始まるが、その中で最も多くの人たちが連行された先が北海道であり、その中心が当時炭鉱町だった夕張であった。今、夕張の人口は最盛期の十分の一である。

開会礼拝「和解と共生の道」／在日大韓基督教教会朴寿吉総幹事、基調報告／外キ協秋葉正二事務局長、聖書研究「なぜ『外国人が暮らしやすい社会は日本人にも暮らしやすい』か」(エレミヤ七・二一〜二五)／古賀清敬牧師、主題講演／香山人司祭・金景南牧師、分団協議、全体協議、共同宣言採択、閉会礼拝「義は国を高める」／李明男韓国教会在日同胞人権宣教会委員長。現場研修、札幌市アイヌ文化交流センター「札幌ピリカコタン」を訪ねた。〇六年「第二回外登法問題国際シンポジウム」を韓国で開催する。(柴田作治郎報 小樽望洋台教会牧師・北海道外キ連)

戦後補償献金について
毎年度、八月の平和聖日と二月のクリスマスとに呼びかけてきた。この戦後補償献金については今年度(二〇〇五年)が日本基督教団一〇年募金の最終年にあたります。

平和聖日、またクリスマスを機にご協力、ご献金くださいますようお願い申し上げます。

募金締め切りを二〇〇六年三月三十一日としますので、他の機会にもお献げくださるようおすすめいたします。

日本基督教団総幹事 竹前 昇
◎郵便振替(00140191145275/日本基督教団)

ひととき

橋本恵子さん

私の思いを超えたところで



1970 年東京生まれ。二期会会員・メゾソプラノ。下谷教会員。

両親がクリスチャン。教会に行くのが当たり前の生活だった。音楽に触れたのも、「将来奏樂のご奉仕ができれば」という親の祈りだったという。ピアノを習った先生が、本来声楽が専門だったこともあり、声楽の道に進んだ。

「自分は今のまま、長く歌手として生きることができない」限界を感じ、自分を崩したいと願うようになった。ミュージン音大に留学中だった。「でも、崩れる時って人間の想定内の崩れ方をしないんですね。本当に何もなくなりました」声を壊し、歌えなくなった。さらに帰国後、病が追い打ちをかける。喉にかなり大きなポリープが見つかり、手術が必要になりました。

「自分は今のまま、長く歌手として生きることができない」限界を感じ、自分を崩したいと願うようになった。ミュージン音大に留学中だった。「でも、崩れる時って人間の想定内の崩れ方をしないんですね。本当に何もなくなりました」声を壊し、歌えなくなった。さらに帰国後、病が追い打ちをかける。喉にかなり大きなポリープが見つかり、手術が必要になりました。

「赤バッチになりました」と言っている。少年はいつに無くうれしそうである。この日の面接は積極的な自分から話をするのであった。少年院の篤志面接委員をしている。少年達と面接することで更正指導を行い、社会復帰の備えをするのである。

しかし、少年達は自らが望んで面接を受けているのではなく、少年院の指導のもとに面接に臨む。本来は少年達がいろいろ相談を持ちかけるのであるが、何を相談してよいかわからない。そこでこちらから話しかけ、現状や将来について話し合うのである。

少年達は窃盗、猥褻、薬、暴走運転、放火等により保護されている。比較的多いのは放火である。それも火災まで考えていないよう

言い、教会は表に賽銭箱がないので魅力が無いとも言う。教会は孤独な少年達を受け入れるだろう。しかし、賽銭箱が表に無い教会は少年達にとって魅力が無い、中に入っても同世代はいない。高齢者が多く、自分の居場所が無いのである。賽銭箱に向かう少年達の祈りを聞いてあげたい。赤バッチになると、まもなく出院準備となる。社会に復帰して、再び賽銭箱の前に立つとしたら、自らをささげるものであることを祈りたい。(教団総書記 鈴木伸治)

賽銭箱に向かう

「赤バッチになりました」と言っている。少年はいつに無くうれしそうである。この日の面接は積極的な自分から話をするのであった。少年院の篤志面接委員をしている。少年達と面接することで更正指導を行い、社会復帰の備えをするのである。

しかし、少年達は自らが望んで面接を受けているのではなく、少年院の指導のもとに面接に臨む。本来は少年達がいろいろ相談を持ちかけるのであるが、何を相談してよいかわからない。そこでこちらから話しかけ、現状や将来について話し合うのである。

少年達は窃盗、猥褻、薬、暴走運転、放火等により保護されている。比較的多いのは放火である。それも火災まで考えていないよう

言い、教会は表に賽銭箱がないので魅力が無いとも言う。教会は孤独な少年達を受け入れるだろう。しかし、賽銭箱が表に無い教会は少年達にとって魅力が無い、中に入っても同世代はいない。高齢者が多く、自分の居場所が無いのである。賽銭箱に向かう少年達の祈りを聞いてあげたい。赤バッチになると、まもなく出院準備となる。社会に復帰して、再び賽銭箱の前に立つとしたら、自らをささげるものであることを祈りたい。(教団総書記 鈴木伸治)